

センバツの応援に対する謝意を示し、今夏の甲子園出場へ意欲を新たにするナイン  
=1日、八戸市の光星高



# 光星ナイン母校に戻る

## 「勇気をありがとう」

### 生徒ら横断幕掲げ出迎え

第83回選抜高校野球大会(甲子園球場)で悲願の初戦突破を果たし、2回戦で敗れた光星ナインが1日、八戸市湊高台6丁目の同校に戻った。玄關前では生徒や教職員ら約100人が「勇気をありがとう」と書かれた横断幕を掲げ、盛大に出迎え。ナインは地元の応援に謝意を示すとともに、今夏の2季連続甲子園出場へ意欲を新たにした。

ナインは3月6日、センバツに向けた調整のため沖縄キャンプに出発。11日に八戸にいったん戻り、準備を整えて大阪入りする予定だったが、東日本大震災の影響で足止めされ、そのまま大阪入りした。

2年ぶり5度目の今大会は、25日の1回戦で水城(茨城)に10-0で快勝。29日の2回戦では、健闘及ばず袖豪・智弁和歌山に2-3で惜敗した。31日朝に大阪府吹田市の宿舍をバス2台で出発し、約2時間かけて帰校した。

1日は校舎玄關前にソフトテニス、チャリーディング部などの生徒と教職員が集合。午前8時にバスで到着したナインを拍手と歓声で出迎えた。法宣新一校長が整列したナインを前に「多くの人に勇気と感動を与えてくれた。今回は(現地の)応援に行けなかったが、夏は全校で行く」とねぎらった。

これに対し、仲井宗基監督は「たくさん支えがあった。野球ができた。今後は支えてくれた方のため、できるだけのことをやりたい。」川上龍平主将は「夏も甲子園へ行くように頑張る。応援ありがとうと書いていました」とお礼。八戸短大付属幼稚園の園児からは野球ボールなどが描かれた手作りの「メダル」がブレゼントされ、ナインはうれしそうに表情を見せていた。

出迎えたレスリング部主将の工藤諒司君(も)は「レスリングは全国選抜大会が中止で残念だったが、僕らの分も頑張ってくれた。みんないい顔で帰ってきてくれた」と話していた。